あなたの「やってみたい」を応援します!!

ゆめこらぼ通信

第24号
発行
平成25年4月1日
（隔月発行）

「ゆめこらぼ」は、コラボレーション（協働）によって夢を広げ、夢があふれる空間をめざします
発行:西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ　〒188-0012　東京都西東京市南町 5-6-18　イングビル

2013 NPO 市民フェスティバル

輪っはっは…福縁で行こう！
鬼は外、福はきらっと、笑顔いっぱい

2 月 3 日（日）節分の日、第 4 回 NPO 市民フェスティバルが南町スポーツ・文化交流センターきらっとの多目的ホール、田無公民館の視聴覚室を中心に開かれ、約 300 名が参加されました。

本年は、昨年を上回る 43 団体の参加を得て、市民との交流の輪が笑顔で広がりました。

▲登録団体のグループ発表

今回は、参加団体の展示と発表を 7 ジャンル「子育て」、「福祉」、「まちづくり・社会」、「環境」、「シニア」、「情報・教育」、「芸術・文化・スポーツなど」のグループに区分、それぞれに七色の虹をイメージした試みで、従来の小冊子からプログラム・パンフレットもカラー区分され、見やすくなりました。

午後には、NHK の人気番組だった『難問解決！ご近所の底力』の黒川ディレクターによるビデオ上映を交えたクイズ形式の講演があり、地域力に役立つ事例の紹介がありました。

◂NHKディレクターによる講演

パフォーマンスでは URBANE CREW、田無工業高校軽音部、アルテピアッツァローゼ、楊智二胡楽団の演奏やアルゼンチン舞踊など盛り沢山で、日頃の腕前を披露されました。

▲登録団体によるパフォーマンス

西東京市発祥の日本けん玉協会松永義希名人（同協会理事長、七段）による模範演技、同じく西東京市発祥の江戸むらさき会（代表濱野敏郎氏）の協力で、新春にふさわしい江戸凧の展示。

▲けん玉の名人芸の実演

田無公民館の視聴覚室では、昨年西東京市市民映画祭のグランプリ、『転校生』の上映や参加団体によるバンド演奏やパフォーマンスがあり、会議室では、子どもの遊びや江戸凧の展示、親子でけん玉教室などの楽しい催し物が行われました。

また、スタンプ・ラリーを実施、きらっと・多目的ホール受付と田無公民館 3 階でシールを貼り、ゆめこらぼで協賛された記念品を配りました。

なお、終了後に行われた懇親会は、公民館地下の調理室で、参加者 43 名と武蔵野大学ボランティアさんを交えての満員御礼の盛況ぶりで、お開きとなりました。

協働を考えるシンポジウム

～協働の未来を語る～

毎年恒例の協働を考えるシンポジウムは今回で 4 回目。2 月 18 日（月）に保谷庁舎 4 階研修室において 41 名が参加して開催されました。

基調講演は横浜市で 2 ヵ所の子育て支援施設を運営している NPO 法人びーのびーの事務局長の原美紀さんをお迎えし、「『協働』にふさわしい『契約』のあり方・仕組みを考える」と題してお話しいただきました。地域課題の解決方法の一つとして『協働』という理念は理解されつつあるが、契約の場面においては行政優位の内容で協働が反映されていないなど問題点を指摘。今後は協働にふさわしい契約のあり方も考えていかなくてはならないと結びました。

パネルディスカッションではグループホームのどかホーム長鶴田篤司さん、NPO 法人子どもアミーゴ西東京事務局長小松真弓さん、NPO 法人みたか市民協働ネットワーク代表理事正満たつる子さん、西東京市生活文化スポーツ部協働コミュニティ課浜名幹男課長の 4 人がパネリストとして参加。初めにそれぞれの活動などを紹介した後に、原さんから協働の機能を十分発揮するために必要な機能とは何か？ また仕組みの改善点、課題を解決するための協働の確立をどう捉えているのか？ などの意見発表を提案し、各々発言する形式となりました。

▲左から原さん、鶴田さん、小松さん、正満さん、浜名課長

まちづくり円卓会議

～西東京のまちづくりを考える～

2 月 21 日（木）コール田無・多目的ホールにて、多様な地域課題に対話と協働で挑む「地域円卓会議」が、ゆめこらぼの地域連携促進事業の新企画として実施されました。

第 1 部は、NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ常務理事の横田能洋さんによる講演「地域円卓会議の可能性」でした。国のモデル事業として行われた茨城の実例から、地域円卓会議の特徴や効果、狙いなどが説明され、暖かい雰囲気で進められる地域円卓会議への期待が膨らむ内容でした。

続く第 2 部では、横田さんをファシリテーターに、西東京市の公民館、社会福祉協議会、地域包括支援センター、児童館運営の NPO 団体、デイサービス事業者、語らいの場を提供する市民団体の多彩なメンバーで「居場所づくり」をテーマにまちづくり円卓会議を行いました。約 30 人の傍聴者がいる中、ぶっつけ本番の会議だったにもかかわらず、会議メンバー同士も提案が飛び交う展開もあり、白熱した議論で話の流れが書かれた紙が何枚も貼り出されました。

会場からも意見を聞き、短い会議時間でしたが、実践に繋がりそうなこともあり、居場所に関する情報不足などは課題として共有。新たなメンバーを巻き込むなど、次へと議論が継続されることを期待し、閉会しました。

▲多様なアイディアが出される会議メンバーを囲んで参加者が傍聴

ゆめサロン

～こどもがいきいきと意見を言えるということ～

2 月 17 日（日）、ゆめこらぼサロンコーナーで第 5 回ゆめサロンを開催。参加者は 23 名。「西東京市子どもの権利に関する条例」の実現をすすめる会の古谷高子さんを案内役に、ハンディを乗り越えて都立高校を卒業し、介護を受けつつ自立して社会に発信し続ける梅村涼さんの話を聞きました。

涼さんの高校の恩師である孝本敏子先生も、当時の楽しいやら、悔しいやら、でも負けない涼さんの日々を語って下さいました。涼さんが対等な立場で机を並べていることで、生徒が変わり、先生が変わる。当時はわからなかったが何年か経って「そのことの大切さに気づいた」と記す手紙を受け取ったという話も。

参加者で子育て真っ最中のお母さんからの率直な声や、子育てを卒業した方のお子さんとの日々を思いおこす話など、幅広い経験談がサロンに染み渡っていく貴重な時間でした。

休憩時間にはシャンソン『Tous les droits des enfants 子どもたちのすべての権利』という曲を BGM にいくつもの輪が広がっていました。

人として分け隔てなく、自分の考えを発信し、共に生きていくことの大切さを共有した場でした。「子どもの権利」を願うことは子どもにとどまらず、「すべての人間」の権利を希求することであると確信できました。この気づきから、さらなるつながりが生れることを願います。

▲左から孝本さん、梅村さん、古谷さん

助成金情報

◆地域福祉に対する助成事業

【対象】西東京市内で地域福祉活動をしている、または始めようとしているグループ・施設・民間団体などで、地域の人を対象とする講座、講演会、住民同士のつながりをつくる事業など。

【助成金額】1 団体上限 15 万円、総額 60 万円

【応募期限】4 月 25 日（木）必着

【問い合わせ先】西東京市社会福祉協議会 地域福祉推進係　〒202-0013 東京都西東京市中町 1-6-8 保谷東分庁舎内　電話 042-438-3771

◆子育て家庭支援団体に対する助成活動

【対象】国内において就学前の子どもの保護者などへの支援活動を行っている、下記の要件を満たす団体。(1)助成申請時点で 1 年以上の活動実績を有し、少なくとも月 1 回以上の定例活動日を定め継続して運営していること。(2)下部組織への支援または物品の貸出しのみを行う団体でないこと。(3)団体の設立趣旨や活動内容が特定の政党、宗教に偏っていないこと。

【助成金額】1 件あたり最大 25 万円

【応募期限】4 月 30 日（火）消印有効

【問い合わせ先】生命保険協会　〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3 丁目 4 番 1 号 新国際ビル 3 階　電話 03-3286-2643

◆青少年スポーツ振興

【対象】青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、かつ 3 年以上継続して活動しているスポーツ振興を主たる目的とする法人で下記の条件を満たす団体。(1)定款、寄附行為またはそれらと同等の規約があること。(2)団体の意志を決定し、執行する組織が確立していること。(3)経理処理能力があり、監査する等の会計組織をもっていること。(4)団体活動の本拠としての事務所をもっていること。

【助成金額】年度内に予定する 1 つの事業予算の 2 分の 1 で概ね 100 万円以内。

【応募期間】6 月 30 日（日）必着

【問い合わせ先】ヨネックス財団　〒113-8543 東京都文京区湯島 3-23-

4月の行事・イベント

（詳細は、ゆめこらぼのホームページを参照）

◆ラララ流♪ハーブの勉強会

（日時）4 月 5 日（金）午前 10 時～

（場所）ラララ農園　（参加費）1000 円

（主催）ラララ♪MaMa

◆退職後の不安を解消　年金・医療・介護はいくら？

（日時）4 月 20 日（土）午後 1 時 30 分～

（場所）パスレル保谷　（受講費）1500 円

（主催）NPO プラス・ド・西東京

◆映画無料定期上映会『お熱いのがお好き』

（日時）4 月 26 日（金）午後 6 時 40 分～

（場所）ひばりが丘公民館　（参加費）無料

（主催）団塊ネット西東京

（以上、登録団体の行事・イベント）

新たな登録団体

（2013 年 3 月 31 日現在、カッコ内は団体の目的）

◆楊智二胡楽団

（中国の伝統楽器である二胡で、市民の祭りやイベント時に演奏活動をしている楽団）

◆日本語を話す会

（季節の行事や多様なイベントなどを取り入れながら、外国人に日本語を教えている会）

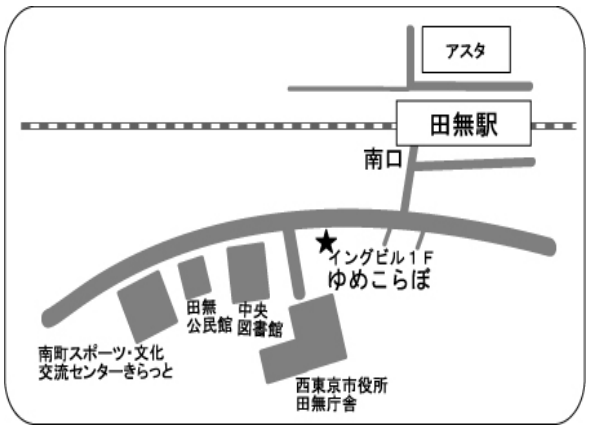
◆学校図書館を考える会・西東京

（例会を開いて情報交換を行い、学校図書館の充実のために市や教育委員会へ働きかける会）

◆西東京市民会議

（地球と命と緑を守り、次世代へ引き継ぐことを目的に創意工夫でいろいろな活動を行う）

＜合計 106 団体になりました＞



みんなの本棚

『大往生したけりゃ医療とかかわるな』

－「自然死」のすすめ－

中村仁一<著>

幻冬舎新書

798 円(税別)

◆新聞の記事下広告に、挑発的なタイトルが踊っていた◆高齢社会は大量死の時代を迎え、医療財政の逼迫を背景に、終末期のあり方が表立って問われるようになった。本来なら人間らしい死に方こそ議論されねばならないところ、まず経済的観点から世論が喚起されるのは皮肉なことだ◆著者は老人ホームなどで数百例の「自然死」を見てきた、中村仁一先生。生前自ら棺桶に入ってみるという「納棺儀礼？」をテレビでご覧になった方もいるかもしれない。医療を仏教とつなぐ実践もされている◆平素過剰な医療、無駄であるばかりか却ってQOL（生活の質）を低下させてしまう医療の実態を見聞することも多い。医療をサービス産業と割り切っても、患者に可能な限りの利益をもたらすのが医療従事者の仕事だろう。本書により、終末期医療の分野で、特にその矛盾があぶり出される◆終末期を家庭で、という流れもみられる。となれば、地元の医師の往診が欠かせず、地域医療の充実が期待される◆医療費の増大に苦しむ役所の姑息な誘導であったとしても、地域医療充実という考えが過去のルーズな医療行政を反省するものであれば、大いに歓迎したい◆自己決定権に基づく自然死を選択したいのなら、本書は具体的な示唆に富む。

加藤裕子さん（下保谷在住）※

http://freeport.at.webry.info/

※今号から市民目線の書評欄を設けました。

開館日：水～月（10 時～21 時）土・日・祝日オープン

休館日：火曜日（祝日の場合は開館し次の平日に休館）・年末年始

〒188-0012　西東京市南町 5-6-18 イングビル 1 階

西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ

Tel: 042-497-6950　FAX: 042-497-6951

E-mail: yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp

URL: http://www.yumecollabo.jp/